

平成 24 年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(平成 23 年度対象)

平成 25 年 2 月

深谷市教育委員会

目 次

1	趣 旨	1
2	点検評価の目的	1
3	点検評価の対象及び方法	2
4	「深谷市総合振興計画」の施策体系図（施策大綱の＜教育・文化＞分野）	
	（1）施策体系	3
	（2）施策展開の方向、主な施策・事業	4
5	点検評価表及び関連事務事業の実績	
	（1）幼児教育の充実	6
	（2）小・中学校教育の充実	8
	（3）特別支援教育の推進	18
	（4）学校施設・設備等の整備	20
	（5）家庭の教育力の向上	22
	（6）地域の教育力の向上	24
	（7）学習機会の提供と学習活動の支援	26
	（8）活動施設の整備・充実	28

(9) 図書館の整備・充実	30
(10) 渋沢栄一翁の顕彰	32
(11) 伝統文化の保存・継承と活用	34
(12) 文化・芸術活動の活性化	36
(13) スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	38
(14) スポーツ・レクリエーション活動の活性化	40
6 結びに	42

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 27 条により、すべての教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

本市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」（以下「点検評価」という。）を実施し、報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の目的

この点検評価は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、教育に関し学識を有する方（以下「点検評価者」という。）のご意見やご提言をいただきながら報告書を作成しました。

報告書を公表することにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

3 点検評価の対象及び方法

本市教育行政の基本施策は、市政運営の基本となる計画である「深谷市総合振興計画」（計画期間：平成 20 年～平成 29 年度）に位置づけられています。

このため、点検評価の対象は、深谷市総合振興計画に位置づけられた施策のうち、教育委員会が執行した施策としています。

具体的には、同計画の施策大綱「第 3 章 次代を担う人と文化を育むまちづくり<教育・文化>」中の施策展開の方向の 14 本柱各々を評価単位としています。

点検評価表のうち、総合評価は、区分の目安として、

A：特によい

B：よい

C：あまり思わしくない

D：思わしくない

としています。

この区分の補足説明として、「評価コメント」欄を設けるとともに、各施策を定量的に説明する観点から「評価指標」を設けました。「評価指標」は、平成 21 年度から平成 23 年度までの 3 年度間の推移を表やグラフを用いて示し、把握しやすいようにしています。

また、「意見・提言」の欄には、点検評価者のご意見やご提言の主なものを施策ごとに示しています。

さらに、各点検評価表に「関連事務事業の実績」を添付し、関係する事務事業の決算額及び事業内容を示しています。

4 「深谷市総合振興計画」の施策体系図（施策大綱の＜教育・文化＞分野）

(1) 施策体系

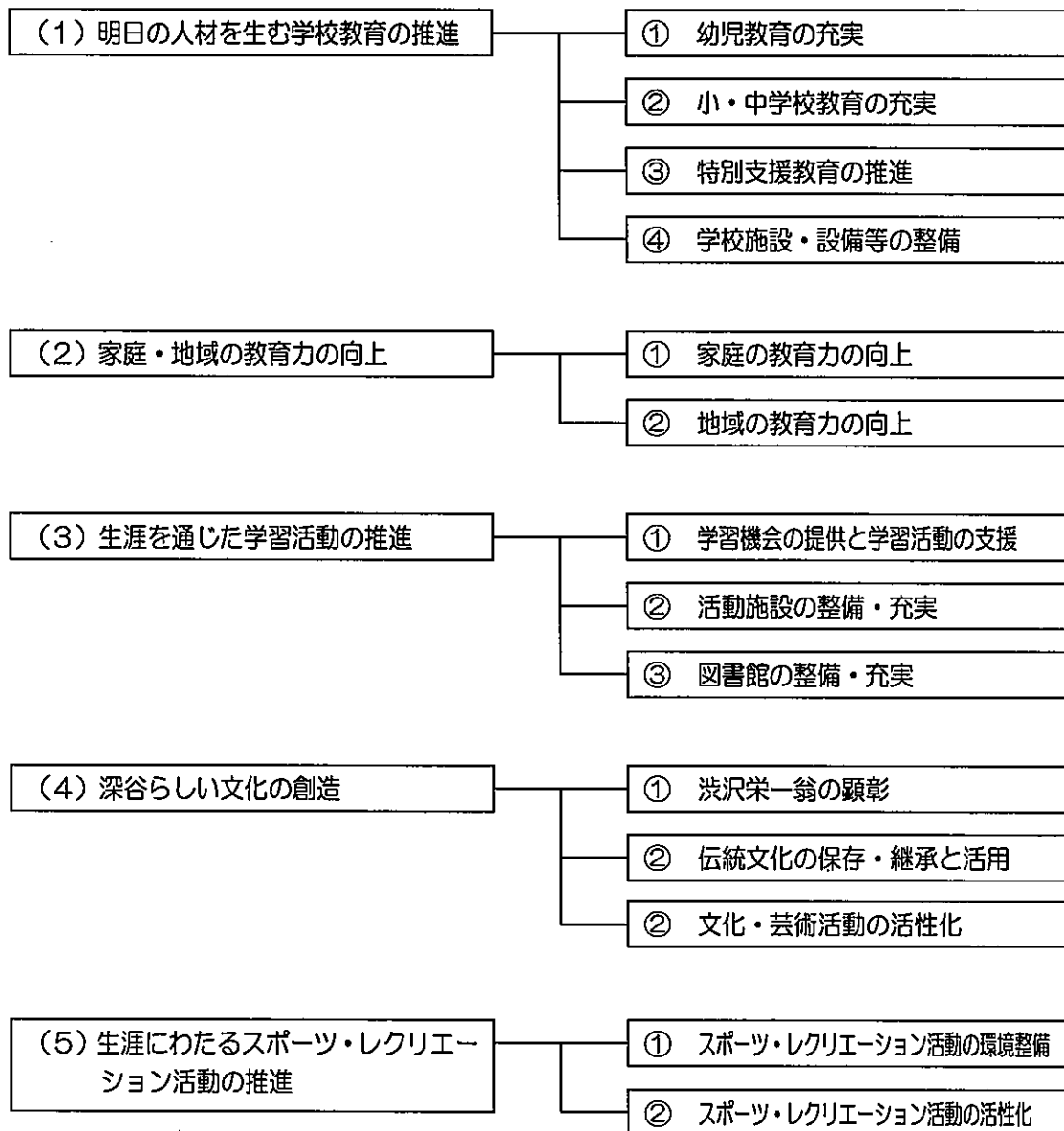
【大項目】 施策大綱

「第3章 次代を担う人と文化を育むまちづくり＜教育・文化＞」

【中項目】 施策名

【小項目】 施策展開の方向

（点検評価作成対象）



(2) 施策展開の方向、主な施策・事業

【大項目】次代を担う人と文化を育むまちづくり<教育・文化>

【中項目】施策名	【小項目】 (点検評価作成対象)	施策展開の方向	主な施策・事業
(1) 明日の人材を生む学校教育の推進	①幼児教育の充実	幼稚園教育と学校教育との連携を図りながら、幼稚園教育の充実に努めます。	①幼児教育に関する情報発信 ②幼稚園と小学校の連携による幼稚園教育の充実 ③「幼・小・中が連携した教育」の拠点づくり
	②小・中学校教育の充実	「確かな学力」の向上を図るよう、教育の質の向上に努めるとともに、現代社会の課題に対応した教育を推進します。また、地域とも連携しながら、健全な社会性を身につけた子どもたちを育てていきます。	①教育の質の向上 ②現代社会の課題に対応した教育 ③地域と連携した教育の推進 ④「幼・小・中が連携した教育」の拠点づくり ⑤生徒指導・相談体制の充実 ⑥不登校対策の推進
	③特別支援教育の推進	障害のある子どものニーズに対したきめ細かな教育を推進します。	①特別支援補助員の配置拡大 ②通級指導教室の充実、拠点づくり
	④学校施設・設備等の整備	校舎の耐震化など、施設・設備の計画的な整備に努めます。	①校舎・体育館等の施設整備計画の策定と計画的な整備・改修
(2) 家庭・地域の教育力の向上	①家庭の教育力の向上	家庭教育の重要性の認識を引き出すとともに、問題を抱える親や子がそれぞれ相談できる体制の充実に努めます。	①家庭教育学級の充実 ②相談機会の充実 ③基本的な生活習慣を身につけるための啓発活動
	②地域の教育力の向上	地域社会において、世代間交流を推進しながら、子どもを教育していけるよう、連帯意識の向上を図ります。	①地域における交流の推進
(3) 生涯を通じた学習活動の推進	①学習機会の提供と学習活動の支援	多様化する学習ニーズに対応できるよう、講座・教室内容の充実に努めるとともに、学習成果の活用場の場づくりを進めます。 また、リカレント教育を推進していきます。	①学習情報の提供 ②講座・教室内容の充実 ③学習の成果を発揮する機会・場の提供 ④リカレント教育の推進
	②活動施設の整備・充実	施設の老朽化等に対応して、公民館（生涯学習センター）の充実に努めます。	①公民館（生涯学習センター）の整備・充実

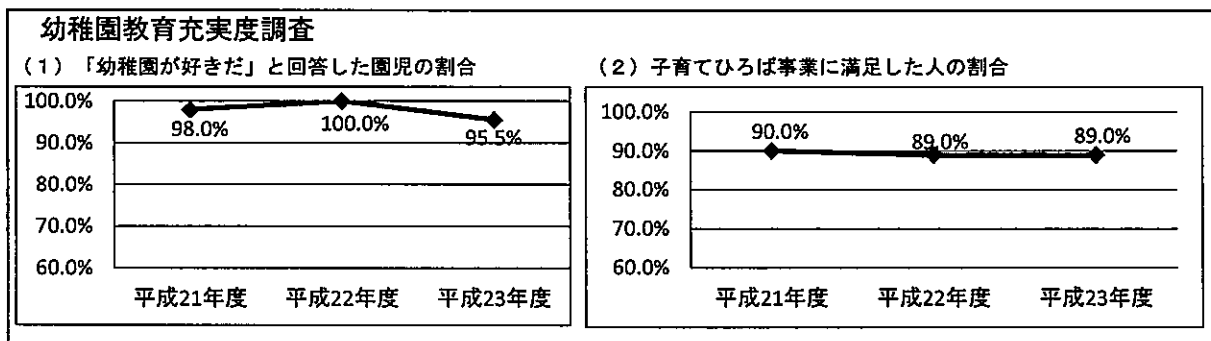
【中項目】 施策名	【小項目】 (点検評価作成対象)	施策展開の方向	主な施策・事業
	③図書館の整備・充実	施設・設備の整備を図りながら、図書館資料やサービスの充実に努めます。 また、読書活動を進め、図書に親しむ子どもを育てていきます。	①施設・設備の充実 ②図書館資料の充実 ③サービスの充実(図書館のネットワーク化など) ④読書活動の促進
(4) 深谷らしい文化の創造	①渋沢栄一翁の顕彰	現代社会においても功績が高く評価されている郷土の偉人 渋沢栄一翁の顕彰を推進します。	①渋沢栄一顕彰事業(情報の収集と発信、顕彰協力員の育成など)
	①伝統文化の保存・継承と活用	地域に伝えられ、残されてきた有形・無形の文化財の調査・研究、保護・保存や継承に取り組むとともに、市民の共有する財産として活用を図ります。	①指定文化財の保護・保存と活用 ②無形民俗文化財の継承 ③文化財の調査・研究 ④文化財の展示・管理施設の整備・充実
	②文化・芸術活動の活性化	文化・芸術の鑑賞機会の拡充や発表機会の確保を図るとともに、市民の自主的な活動の支援に努めます。	①文化・芸術の鑑賞機会の拡充 ②文化団体等の自主的な活動の支援 ③市民の文化・芸術活動の発表機会の提供 ④地域ゆかりの文化の振興 ⑤文化施設の再整備
(5) 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	①スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実、指導者の育成など、身近な場でスポーツに親しめる環境づくりを進めます。	①スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し ②指導者の育成
	②スポーツ・レクリエーション活動の活性化	スポーツ・レクリエーション活動に参加する機会の充実に努めるとともに、団体の活動支援に努めます。	①スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ②スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ③総合型地域スポーツクラブ設立の支援

5 点検評価表及び関連事務事業の実績

施策展開の方向	1 幼児教育の充実
---------	-----------

評価担当課	学校教育課	関連課	教育総務課
現状と課題	<p>幼児の生活に関して、基本的な生活習慣の乱れや、小学校生活に適應できない「小1プロブレム」が問題となっている。幼稚園教育は、その後の小学校、中学校での教育の基礎をつくる極めて重要な教育であり、幼稚園、小学校、中学校の連携を強化し、系統的な教育の充実を進める必要がある。</p>		
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前児童の保護者への支援を図る。 ・幼稚園・小学校・中学校の連携推進会議を計画的に実施する。 ・幼稚園教育と学校教育との連携を図りながら、幼稚園教育の充実に努める。 		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てひろばや各園の行事を通して、幼児教育に関する情報発信、幼・小・中交流事業の推進及び教職員の指導力の向上を目指した研修会を実施した。 		
総合評価	B	※評価の目安 A: 特によい B: よい C: あまり思わしくない D: 思わしくない	
評価コメント	<p>平成23年度は、「子育てひろば」を大学の専門家やボランティアの協力を得ながら、全6回開催することができた。このように、子育てに不安を持つ保護者が増加しているなか、幼稚園教育の充実に努め、教育の質の向上や現代社会の課題に対応した教育の推進を図ることができたと考える。</p> <p>しかしながら、評価指標である「幼稚園教育充実度調査」については、園児及びその保護者の満足度は昨年より低くなってしまった。このことを受け、幼児教育の質を上げ保護者のニーズに応えるよう、さらに幼稚園教育の充実を図っていく必要があると考える。</p> <p>今後とも、幼稚園教育と学校教育の連携を図るとともに、教育と福祉との創造的な連携を検討していくことが必要である。</p> <p>以上の理由から、平成23年度の取組は、Bと評価した。</p>		
意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て広場については、大変充実した取組をしており、評価できる。 ・幼稚園の臨時教諭の割合が高く、正規職員が不足していることが課題と考える。 ・今後も教育委員会主導で幼稚園・小学校・中学校の連携に力を入れてほしい。 		

評価指標



関連事務事業の実績（小項目：1 幼児教育の充実）

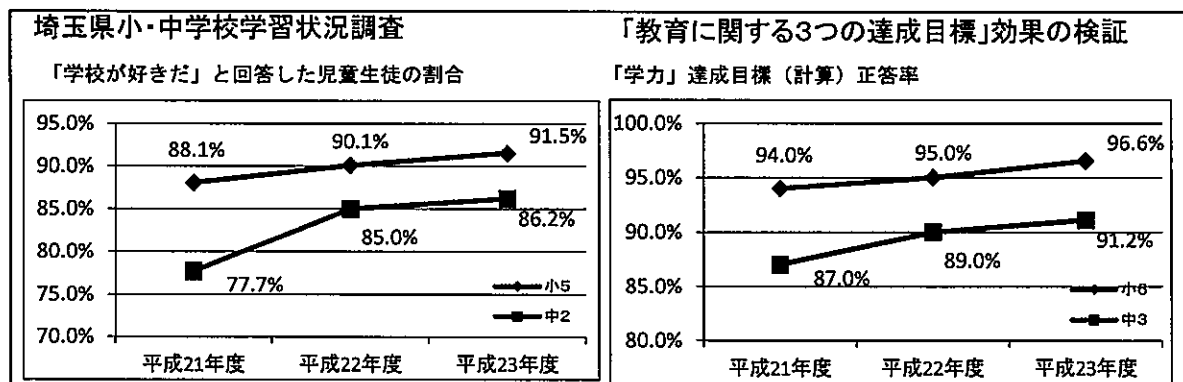
事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
1-1 幼稚園就園奨励事業	<p>【決算額】49,324千円</p> <p>所得状況に応じた保護者の経済的負担の軽減と、公私立幼稚園間の保護者負担の是正を目的に、幼稚園の保育料を軽減するもの。H23年度は575人を認定し、市から私立幼稚園22園に補助金を交付した。※園は補助金額分の保育料の還付を、認定された保護者に対して行う。</p>	教育総務課
1-2 幼稚園教育活動推進事業	<p>【決算額】44,359千円</p> <p>幼稚園の管理及び教育活動を充実させ、効率的かつ円滑に行うために、側面的に支援をするもの。学級数に比して、正規職員が不足している。その不足を補うために、臨時職員を採用し円滑な幼稚園運営を図るもの。また、幼稚園教諭資質の向上のために幼稚園教諭研修会を実施し、日々の保育に役立てるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時教諭 担任11人、副担任4人、担任補助5人を配置した。 ・幼稚園教諭研修会を3回実施した。 ・園児募集パンフレット等を作成した。 	学校教育課
1-3 幼稚園健康・安全教育推進事業	<p>【決算額】6,126千円</p> <p>幼稚園における園児の健康管理、安全管理及び疾病の早期発見、教職員の健康の保持増進を図り、幼稚園教育の円滑な実施を目指すもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園医及び園薬剤師を委嘱し、報酬・旅費を支出した。 ・園児・臨時職員の健康診断業務委託を行った。 ・学校災害賠償補償保険に加入した。 ・日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入等 	学校教育課
1-4 幼児期における実践活動調査研究事業	<p>【決算額】209千円</p> <p>子ども達の運動能力（基礎的動作）を測定し子ども達の体の発達の状況を捉え、幼稚園における運動や遊びの充実を図り体力向上の基礎を培うもの。</p> <p>体力向上に関する幼稚園教諭研修会を実施し、保育に役立てるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力測定実施園児数667人（全12園実施） ・研修会を2回実施した。 	学校教育課
1-5 就園前幼児教育支援事業	<p>【決算額】224千円</p> <p>未就園児の親子を対象に、地域の子育ての拠点として公立幼稚園の教育機能や施設を活用し、大学の専門家（臨床心理士）、ボランティアの協力を得て、就園前幼児・幼稚園児・小学生・中学生へと成長していく一人の子ども達の成長を継続的に支援するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て広場参加人数 131組 270名で実施した。（2歳から就園前の幼児とその保護者） ・子育て広場を8園で実施した。 	学校教育課

施策展開の方向	2 小・中学校教育の充実
---------	--------------

評価担当課	学校教育課	関連課	教育総務課、教育施設課
現状と課題	<p>人格の完成とともに、健全な社会性を身に付けた児童生徒の育成が重要な課題になっている。家庭地域と連携した取組を強め、体験学習や校外体験活動等の充実により規範意識や公共心を育てていくとともに、不登校児童生徒の支援のため、教育相談等の充実を進めていく必要がある。</p> <p>喫緊の課題である学力向上に向けて、児童生徒の学習意欲を促すよう、教員の指導力や家庭の教育力の向上が必要である。</p>		
基本方針	<p>次代を担う子どもたちの豊かな人間性と「確かな学力」を育むために、学校、家庭、地域が連携しながら教育内容の充実に取り組んでいく。</p>		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進委員会を通しての「確かな学力」の向上に向けた取組、英語教育研究開発事業の充実、専門家チームを有効活用した生徒指導相談体制の充実を図った。 ・中学校区での小・中連携を図るための連絡会を実施し、不登校児童生徒の解消に努めた。 		
総合評価	A	※評価の目安 A: 特によい B: よい C: あまり思わしくない D: 思わしくない	
評価コメント	<p>夏季休業中の算数・数学指導法研修会、外国語活動・英語指導法研修会等を通じて、教員の授業力を向上させ、学力向上につなげる取組が計画どおり進められている。また、小学校と中学校の連携による教育の推進が確実に進んでいる。</p> <p>評価指標である「学校が好きだと回答した児童生徒の割合」は、小学校5年生、中学校2年生ともに向上しており、信頼される学校づくりが推進されているものと考えられる。また、「学力達成目標（計算）正答率」についても、年々数値が上がっており、教育の質の向上が図れていると評価できる。</p> <p>以上のことから、平成23年度の取組は、Aと評価した。</p>		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・取組は充実しており、高く評価できる。 ・今後も学校、教育研究所と連携して、児童・生徒の教育支援に取り組んでほしい。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標



関連事務事業の実績（小項目：2 小・中学校教育の充実）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
2-1 小中学校教材整備事業	<p>【決算額】49,064千円</p> <p>学習の質の向上と効率化を図るため、予算を各学校に配当し、各学校の裁量により備品の購入等を行うことで、学校の授業で使用する教材を整備するもの。市内小学校（19校）及び中学校（10校）に対し、生徒数及びクラス数等に応じて予算を配分し、備品及び消耗品の購入、修繕、ピアノの調律の手数料等に使用した。</p> <p>・主な備品購入品 （小学校） ミシン、水槽、楽器、万国旗、地図、拡声器 （中学校） 跳び箱、顕微鏡、剣道用具、電子ピアノ、電動裁断機</p>	教育総務課
2-2 小中学校図書整備事業	<p>【決算額】6,303千円</p> <p>学校図書館の蔵書の充実を図るため、学校図書館図書標準に基づき、必要な図書を新たに購入した。</p> <p>・学校図書館図書標準充足率（平成23年度末現在） （小学校）110.1% （中学校）107.1%</p>	教育総務課
2-3 小中学校要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業	<p>【決算額】90,758千円</p> <p>学校教育法に基づき、経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、給食費や学用品費、校外活動費、修学旅行費等の援助を行った。</p> <p>・平成23年度 小学校 要保護児童51人 準要保護児童740人 中学校 要保護生徒37人 準要保護生徒460人</p>	教育総務課
2-4 小中学校給食事業	<p>【決算額】195,725千円</p> <p>小学校（14校）及び中学校（8校）で学校給食を提供した。</p> <p>・教育総務課支出：給食調理業務委託料、給食用消耗品（食器、洗剤等）、給食用備品（スチームコンベクションオーブン、電気式器具消毒保管機等）、給食用ガス代、臨時学校栄養士賃金等に使用された。</p> <p>・各学校支出：給食用消耗品（ラップ、ビニール手袋等）、修繕料、給食用備品（給食用サンプルケース、皮むき機等）</p>	教育総務課
	<p>【決算額】21,957千円</p> <p>教育総務課より執行委任を受け、以下の工事及び委託業務を実施した。</p> <p>・実績：川本南小学校給食室内部改修工事、藤沢中学校給食室内部改修設計業務、給食用グリストラップ清掃業務、給食場喚気扇清掃業務等</p>	教育施設課

関連事務事業の実績（小項目：2 小・中学校教育の充実）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
2-5 学校給食センター管 理事業	<p>【決算額】62,351千円 岡部学校給食センター（小学校4校、中学校1校）及び花園学校給食センター（小学校1校、中学校1校、幼稚園1園）で学校給食を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な経費：給食調理業務委託料、光熱水費、修繕料、給食用備品購入（牛乳用保冷庫、配膳台等） 	教育総務課
2-6 学校管理事務	<p>【決算額】229,304千円 児童生徒が安全に学校生活を送ることができる環境を整備するため、学校施設の適正な維持管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な経費 臨時職員賃金、光熱水費、備品購入費 	教育総務課
2-7 不登校対策事業	<p>【決算額】16,641千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校福祉相談員（カウンセラー）や専門員による相談活動を行うことにより児童生徒、保護者に適切な指導助言を行うもの。 ・適応指導教室への入室等に際し、学校・保護者の相談に応じるもの。 ・適応指導教室における個別指導を充実する。 ・学校相談員を各中学校毎に配置することで、きめ細やかな対応を図った。多様化する不登校児童生徒に対して、学校・保護者・関係機関の連携が深まり、学校復帰等への支援が強まった。 ・学校相談員の配置 全中学校に1名配置（合計10名） ・適応指導教室を設置し運営の充実を図った。 ・適応指導教室へ通う児童生徒の学校へ復帰した割合（65%） <p><小中一貫教育推進モデル事業 県教委委嘱事業> 川本中学校区をモデル地区に、川本北小・川本南小・川本中学校において、いわゆる中1ギャップの解消を通して、学力向上や不登校ゼロを目指した様々な取組を展開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校数学加配教員による小学校でのT・T授業（1名） ・児童生徒交流、教員の交流、カリキュラムの作成等 	学校教育課
2-8 少人数指導事業	<p>【決算額】32,268千円 個に応じた指導や基礎学力の定着、学習習慣の育成を図ることを目指し、各学校にアシスタントティチャーを配置するもの。教科における少人数指導や低学年児童（1・2年生）の生活指導支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校にアシスタントティチャーを29名配置（10校に2名配置） ・学校別年間授業実施時間数延べ 22,180時間実施した。 	学校教育課

関連事務事業の実績（小項目：2 小・中学校教育の充実）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
2-9 総合的な学習の時間 支援事業	<p>【決算額】95千円</p> <p>「総合的な学習の時間」の充実のため、学校を支援していく必要があり、その支援として、地域人材、地域施設、情報メディアを利用、活用し学校の創意工夫ある教育活動が実施できるようにし、市内小中学校が児童生徒や地域の実態に応じて独自性のある「総合的な学習の時間」を推進していくことを目指すもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」の実施に係る講師招聘の謝金として支出した。 ・学校支援ボランティアの保険への加入をした。 	学校教育課
2-10 コンピュータ教材整備事業	<p>【決算額】271,165千円</p> <p>新学習指導要領の趣旨を踏まえ、コンピュータやインターネットを普通教室においても活用できるよう計画的に整備することで、各教科や総合的な学習の時間において、児童生徒の調べの学習、問題解決学習のさらなる充実を目指すもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ消耗品購入 ・コンピュータリース料金 ・フィルタリングリース料金 ・インターネット高速回線使用料 ・ホスティング使用料 ・ウィルスソフト更新 ・コンピュータ室整備・購入 	学校教育課
2-11 中学生社会体験チャレンジ事業	<p>【決算額】733千円</p> <p>中学生を対象に3日間働く体験をすることにより、生徒が自らの将来の生き方を考え、望ましい勤労観や職業観をもつことにより、自己の進路を設計し、適切な進路選択を行うことを期待するもの。市内の1年生又は2年生で実施。全ての学校が2年生で実施できるよう移行中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加生徒数 802人 ・協力事業所 203事業所 	学校教育課
2-12 国際化教育推進事業	<p>【決算額】59,157千円</p> <p>生徒の英語コミュニケーション能力の育成及び児童生徒の異文化理解・国際理解の深化のために、市内全小・中学校に英語指導助手を派遣することで、国際理解教育の推進を目指すもの。</p> <p>外国籍児童生徒等のために、日本語指導員を雇用及び小・中学校へ派遣し、要日本語指導児童生徒への指導を行うことで日本語能力の上達を目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校29校に英語指導助手を配置（16名） ・日本語指導員5名を配置 <p>（9月補正により1名増員（県費補助10/10）し、5名となる。）</p>	学校教育課

関連事務事業の実績（小項目：2 小・中学校教育の充実）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
2-13 市指定研究事業	<p>【決算額】10,305千円</p> <p>市内の小中学校4校に2年間の研究を委嘱し、魅力ある学校づくりを進めるとともに、子ども達の「生きる力」をはぐくむための研究を推進することで学校教育の充実を図るもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・県より委嘱を受け、研究課題について事業を実施した。 ・英語研修会の実施 市内を3地区に分け、6回実施 延べ120名参加した。 ・小学校外国語活動指導法集中研修会を実施した。(140名受講) ・ふれあい講演会を実施した。(中学校10校) ・研究委嘱校3校を指定した。 ・研究委嘱校2年目校の研究発表等を行った。 	学校教育課
2-14 小中学校教育活動推進事業	<p>【決算額】17,230千円</p> <p>小・中学校の教育活動を充実させ、効率的かつ円滑に行うために、側面的に支援するもの。学校図書館補助員を配置することで学校図書館の整備や読書活動への援助が充実する。小学校に理科支援員を配置することにより、児童の科学技術に関する興味・関心を高め授業の充実を図るもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校に図書館補助員を29名配置 ・全小学校に理科支援員を5名配置 ・校外活動輸送費の補助を行った。 	学校教育課
2-15 小中学校教科書等整備事業	<p>【決算額】32,665千円</p> <p>教員が使用する教科書・指導書・教材を一括購入し、及び児童生徒が使用する副読本等を作成して、各小・中学校に配布することにより、学校教育の充実を図るもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導用教科書、教材、指導書等の不足分を購入した。 ・社会科副読本、白地図等を作成した。 ・新学習指導要領移行措置指導書を購入した。 ・平成24年度教科書の改訂に伴う教師用教科書・指導書・教材等を購入した。 	学校教育課
2-16 情報教育センター事業	<p>【決算額】2,246千円</p> <p>教育庁舎3階に情報教育センターを設置し、研修用コンピュータ・システムの維持と更新により恒常的に教育水準の維持向上と教職員の情報活用能力の向上を目指すもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育研修会 12回 145人参加 ・第5回深谷市児童生徒コンピュータ作品展 12月開催 (来場者 2,586名) 	学校教育課

関連事務事業の実績（小項目：2 小・中学校教育の充実）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
2-17 体力向上推進事業	<p>【決算額】2,153千円</p> <p>中学校に部活動外部指導者を配置することで、中学生に運動の楽しさや喜びを体験させ、体力向上や健康の増進を目指し、部活動の充実を図るもの。また、全国体力・運動能力、運動習慣等の調査に市内小・中学校が取り組むことで、家庭を巻き込んだ運動の機会の拡大をめざすもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の各種体育大会や小学校実技講習会における会場使用料 ・部活動外部指導者への謝礼 ・体力向上に係る研修会、講師謝礼 	学校教育課
2-18 小中学校健康安全教育推進事業	<p>【決算額】43,311千円</p> <p>小・中学校における児童生徒の健康管理、安全管理及び疾病の早期発見並びに教職員の健康の保持増進を図り、学校教育の円滑な実施を目指すもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校医、学校薬剤師の配置 ・児童、生徒、教職員の健康診断委託 ・学校災害賠償保険への加入 ・日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入等 ・結核対策委員会及び結核精密検査委託 	学校教育課
2-19 就学管理事務	<p>【決算額】4,780千円</p> <p>法令により教育委員会が翌年度就学予定者に対して健康診断を実施し、結果に基づき治療を勧告し、保健上必要な助言を行う等の適切な措置を行うための事業を行い、また、各学校で必要な帳票類を集中管理し、効果的な運営をするために要する経費。</p> <p>小中学校職員のメンタルヘルス相談や研修会を実施し、小・中学校配置臨時職員の健康診断を実施するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス相談嘱託医を配置した。 ・指導要録・卒業証書・出席簿等を作成した。 ・市雇用臨時職員の健康診断委託料等を支出した。 	学校教育課

関連事務事業の実績（小項目：2 小・中学校教育の充実）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
2-20 教職員人事管理事務	<p>【決算額】—</p> <p>学校運営の充実・改善を図るために、深谷市立小・中学校29校への訪問指導や市内校長会議の開催、校長との定期面談等を通し、学校と県費負担教職員の適正な管理・指導及び人事に関する事務を行うもの。</p> <p>① 北部教育事務所人事・学事担当学校訪問の実施 6月～9月の9日間、29校を訪問。学校運営に係る指導</p> <p>② 市内園長・校長会議の開催・運営 4月～3月の12回（臨時会も含む）の会議 教育施策の周知や教育情報の提供、講話・講演の実施</p> <p>③ 人事評価に係る校長29名との定期面談の実施 5月、10月、2月の3回の実施。</p> <p>④ 人事異動に係る校長29名とのヒアリングの実施 11月</p>	学校教育課
2-21 教職員研修事業	<p>【決算額】—</p> <p>初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修、20年経験者研修等教職経験に応じて、それぞれの段階における資質能力の向上を図るもの及び教科指導、生徒指導等、指導力の向上を図るもの。</p> <p>・教職員研修会開催回数 23回 ・教職員研修参加人数 1,090人</p>	学校教育課
2-22 学校人権教育推進事業	<p>【決算額】889千円</p> <p>公立学校における人権教育推進のため、教職員を対象とした研修会を実施した。また、人権意識の向上のため、各種研究大会に参加した。</p> <p>・各種研究大会へ参加した。 ・各種研修会等の講師謝礼を支出した。 ・中学校区ブロック別研修会参加人数 536人</p>	学校教育課

関連事務事業の実績（小項目：2 小・中学校教育の充実）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
2-23 通学路制定・変更事務	<p>【決算額】—</p> <p>深谷市教育委員会が定める各小・中学校の通学区に基づいて、各小・中学校が定めた通学路に関して、県や市道路担当課との連携を図り、適切な維持管理をするもの。</p> <p>・各学校が定めた通学路を集約し、市自治防災課並びに深谷警察署交通課へ提出した。</p>	学校教育課
2-24 学校総合支援員配置事業	<p>【決算額】10,898千円</p> <p>不登校や児童虐待、保護者対応など、学校が抱える問題の解決に向けてのアドバイスや児童・生徒の安全指導、中学生補習学習等の総合的な支援を行った。</p> <p>必要に応じて、学校応援団や研究所専門員、専門機関と連携・協力して支援に当たり、緊急・重大な事案の場合にはサポートチームと連携・協力して対応した。</p> <p>・学校総合支援員 全中学校に1名配置（合計10名）</p>	学校教育課
2-25 学力向上推進事業	<p>【決算額】—</p> <p>小学校の算数・理科、中学校の数学・理科の指導力向上に向けて、教職員を対象とする指導法研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校算数指導法研修会（33名参加） ・中学校数学指導法研修会（21名参加） ・小学校理科指導法研修会（20名参加） ・中学校理科指導法研修会（11名参加） <p>学力向上推進委員会を中心に、学習意欲向上に向けて、算数・数学・外国語活動・英語の認定テストを作成し、実施方法の検討を行った。</p> <p>科学の発展、国際化の中でリーダーとして活躍できる児童生徒を育成するため、こころざし深谷科学塾、こころざし深谷国際塾を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こころざし深谷科学塾（43名参加） ・こころざし深谷国際塾（30名参加） 	学校教育課
2-26 中学生補習学習運営事業	<p>【決算額】416千円</p> <p>各学校で実施する補習学習（数学・英語を中心とした基礎学力向上のための学習）支援のため、大学生を中心としたボランティアを派遣する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補習学習実施回数 141回 ・学習ボランティア派遣人数 29名 延べ335人 ・参加生徒数 342人 	学校教育課

関連事務事業の実績（小項目：2 小・中学校教育の充実）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
<p>2-27 教育研究所運営事業</p>	<p>【決算額】36,576千円 教育相談等を充実させ、不登校の児童生徒と保護者に対して支援の充実を図り、登校等を促がすことを目指すもの。発達課題のある児童生徒とその保護者に対して、教育相談や実際に学校へ出向きケース会議等へ参加し、それぞれの課題に対応していく。 教育研究所を利用し、教職員の研修を充実させ、資質が向上することにより、児童生徒が生涯学習社会の中で豊かに生きていくための能力の育成を目指すもの。</p> <p>(学校応援団推進事業) 家庭を含む地域全体が、学校教育を支援する体制づくりを推進することで、教員が子どもと向き合う時間を増やし、家庭・地域の教育力を高め、学校、家庭、地域の連携を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究所専門員 10名雇用 ・主任学校福祉相談員 1名、学校福祉相談員 2名の雇用 ・教育相談主任（教員）研修会 3回 ・教育相談研究協力員研修会 7回 ・施設維持管理業務委託 ・学校応援団 コーディネーター 64名 ・学校支援ボランティア 56,838名参加 	<p>学校教育課</p>

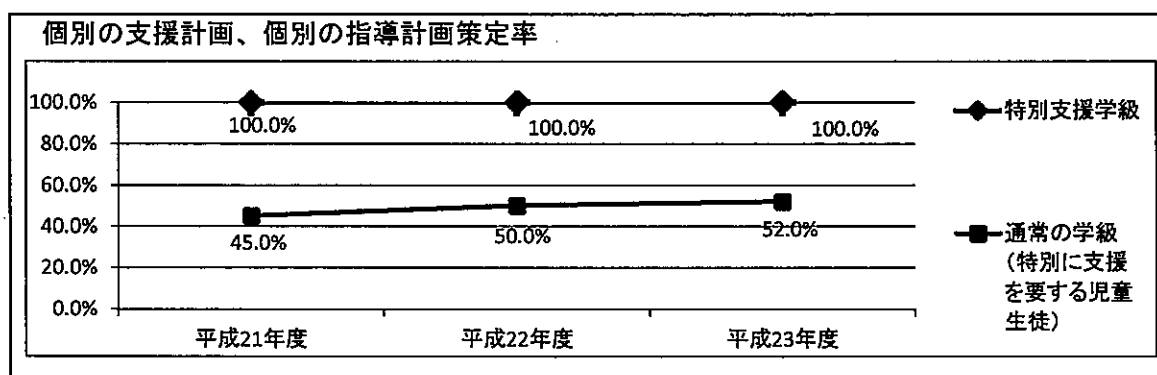


施策展開の方向	3 特別支援教育の推進
---------	-------------

評価担当課	学校教育課	関連課	教育総務課
現状と課題	<p>通常の学級で学ぶ障害のある児童・生徒が増えており、個々のニーズに応じた教育が求められている。これからは、学習や学校生活上の支援を行いながら、環境の整備や教材教具の充実に務めるほか、特別支援教育の視点に立った授業改善に取り組み、通常の学級担任の指導力向上を図ることが重要である。</p> <p>さらに、きめ細やかな支援を行えるよう、特別支援補助員や生徒指導支援員の雇用や資質向上を図っていくことも、重ねて必要である。</p>		
基本方針	障害のある子どものニーズに応じたきめ細やかな教育を推進する。		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援補助員を31名配置した。 ・市内3小学校において、通級指導教室を実施した。 ・臨床発達心理士による巡回相談を、年114回実施した。 ・通級指導教室の担当者の指導力向上を目的に、月1回の研修会を設けた。 		
総合評価	B	※評価の目安 A:特によい B:よい C:あまり思わしくない D:思わしくない	
評価コメント	<p>特別支援補助員については、平成23年度に31名を配置することができた。支援が必要な児童生徒に細やかな配慮をすることができ、一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育が推進された。</p> <p>通級指導教室については、通常の学級に在籍する発達障害の児童生徒への指導を充実させ、学校福祉相談員・通級指導教室担当者が各学校への支援も行うことができた。</p> <p>評価指標である「個別の支援計画、個別の指導計画策定率」については、特別支援学級は100%、通常の学級については52%と策定率が上昇しているが、今後とも、計画策定の100%を目指す必要があると考える。</p> <p>以上のことから、平成23年度の取組は、Bと評価した。</p>		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育について、課題意識が高いと感じる。 ・特別支援補助員の配置については、他市と比較しても、人数が多く、手厚く支援しており、評価できる
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標



関連事務事業の実績（小項目：3 特別支援教育の推進）

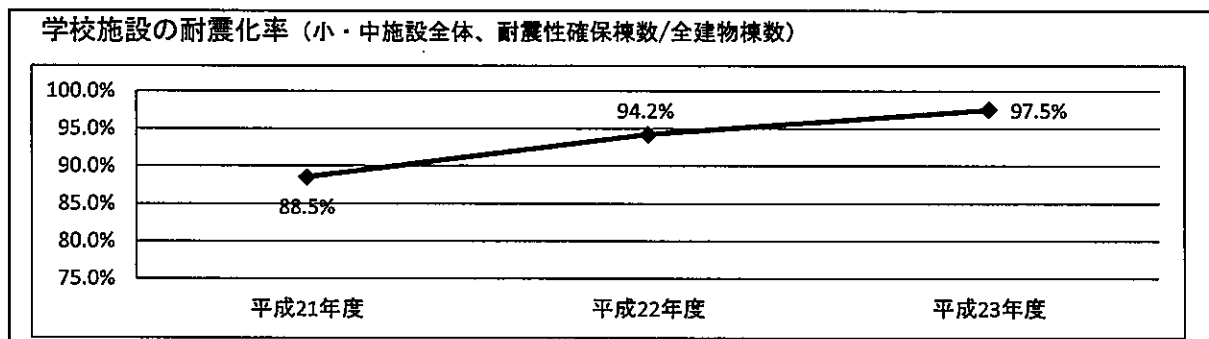
事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
3-1 小中学校特別支援教育就学奨励事業	<p>【決算額】1,555千円</p> <p>特別支援学級に就学する児童生徒の保護者に対し、その負担能力の程度に応じ、給食費や学用品費等必要な援助を行うもの。</p> <p>・平成23年度支給決定者 小学校36人 中学校15人</p>	教育総務課
3-2 特別支援教育事業	<p>【決算額】37,422千円</p> <p>学校教育法施行規則の一部改正（平成18年4月1日）により通級による指導の対象が発達障害傾向のある児童生徒も含まれるようになったことを受け、就学相談や巡回相談等を行うことにより、ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実を図ることを目指すもの。</p> <p>発達障害児童の早期発見・早期支援を行うことにより、2次障害（不登校・不応答）を予防するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援補助員31名を配置。 ・生徒指導支援員8校に配置。 ・臨床心理士による巡回相談を114回実施。 ・コーディネーター研修会を4回実施。 	学校教育課

施策展開の方向	4 学校施設・設備等の整備
---------	---------------

評価担当課	教育施設課	関連課	
現状と課題	児童生徒が安心して学べ、安全で快適な学校環境づくりのために、地震に対する安全性の確保、経年劣化による損傷、機能低下など老朽化した施設機能の回復、設備の強化等が必要となる。		
基本方針	児童生徒にとって一日の大半を過ごす学習・生活の場であることから、安心・安全で快適な学校環境の整備を進める。		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・本郷小学校(東・西棟)、榛沢小学校体育館、岡部小学校体育館について、耐震補強及び老朽改修工事を実施した。 ・全小中学校普通教室へのエアコン導入のため、設計業務委託を発注した。 ・全小中学校及び幼稚園からの要望に基づく現地調査等を実施した。 		
総合評価	A	※評価の目安 A:特によい B:よい C:あまり思わしくない D:思わしくない	
評価コメント	<p>学校施設の耐震化や老朽改修工事は、計画に沿って業務を遂行することができ、安心・安全な学校環境を確保することができた。また、夏季の暑さ対策の施設機能強化として、全小中学校普通教室へのエアコン導入に伴う設計業務も完了した。</p> <p>評価指標である「学校施設の耐震化率」は、平成23年度の実施工事により97.5%となり、深谷市総合振興計画において目標としていた平成24年度98%に対し、概ね1年前倒しでの達成となった。なお、参考値として、当市の学校施設の耐震化率97.5%は、全国平均84.8%、埼玉県平均85.9%と比較しても大きく上回っている。</p> <p>以上のことから、平成23年度の取組は、Aと評価した。</p>		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の修繕については、対応が早いと聞いており、高く評価できる。 ・今後も、子どもたちの安全安心のため学校施設・設備の整備にあたってほしい。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標



関連事務事業の実績（小項目：4 学校施設・設備等の整備）

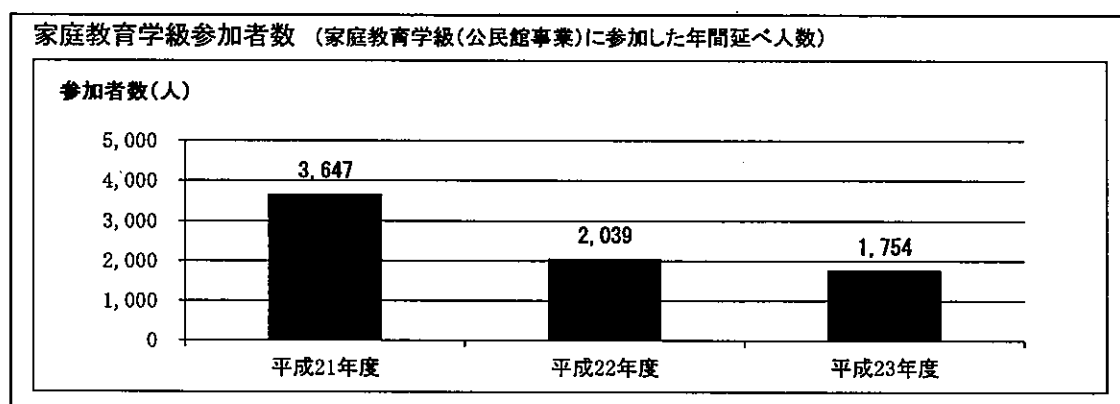
事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
4-1 学校関連施設計画推進事務	<p>【決算額】—</p> <p>安心で快適な教育環境の質的向上を図るため、学校からの要望や教育内容の変化に対する要求事項等についての調査、検討を行った。</p>	教育施設課
4-2 学校施設整備維持事業	<p>【決算額】192,704千円</p> <p>児童生徒及び園児が安全に快適な学校（幼稚園）生活を送ることができる環境を整備するため、以下の業務を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校等の修繕、維持管理業務等 <p>実績：常盤小・幡羅小プール改修工事、幡羅中第2音楽室床改修工事、花園幼稚園新園舎北側埋設給水管漏水修繕、小中学校エアコン設置工事設計業務委託(全29校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設台帳の整備保管 ・教育財産の目的外使用許可業務（東京電力、NTT） ・放射能の測定及び除染作業 	教育施設課
4-3 学校施設大規模改修事業	<p>【決算額】562,582千円</p> <p>校舎や体育館についての耐震性の向上を図ると共に、経年劣化に伴う施設機能の回復として、耐震補強工事及び老朽改修工事を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修工事（補強＋老朽） <p>実績：本郷小（東・西棟）大規模改修工事、榛沢小体育館・岡部小体育館大規模改修工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国庫負担金交付申請等事務 	教育施設課

施策展開の方向	5 家庭の教育力の向上
---------	-------------

評価担当課	生涯学習課	関連課	
現状と課題	<p>核家族化や少子化の進行、また、共働きの親の増加に伴う影響などにより、家庭の教育力が年々低下しているといわれている。さらに、児童虐待や養育放棄、過保護・過干渉・放任等の問題も生じている。</p> <p>家庭の教育力の回復は重要な課題であり、家庭環境が子どもに与える影響の大きさについて、親が認識を深めて学習意欲を高めるよう、啓発活動の充実や支援体制の強化が求められている。</p>		
基本方針	<p>家庭教育の重要性の認識を引きだすとともに、問題を抱える親や子がそれぞれ相談できる体制の充実に努める。</p>		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 市内全19小学校において、就学時検診時に「親の学習」講座を実施した。 家庭教育だより「まごころ」を発行した。(年3回) 各公民館において、家庭教育学級を実施した。 		
総合評価	C	※評価の目安 A:特によい B:よい C:あまり思わしくない D:思わしくない	
評価コメント	<p>「親の学習」講座を、平成22年度から市内全19小学校において実施している。このことにより、子どものしつけや教育に不安を持つ親に対して、家庭の教育力向上のための支援を実施できた。</p> <p>家庭教育だより「まごころ」は、中学生以下の子どもを持つ家庭に配布したほか、公民館や幼稚園などの市内公共施設、民生委員などへも配布し、家庭教育の重要性を広く周知することができた。</p> <p>評価指標である「家庭教育学級参加者数」については、285人減少しており、魅力的なプログラムにするよう見直す必要がある。このため平成23年度の取組は、Cとした。</p>		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育学級の参加者の減少には、公民館の利用者数の減少とも関連しているのではないかと。 親の学習の参加率を高めるために、さらに学校の協力を得る方策を検討してみてもどうか。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標



関連事務事業の実績（小項目：5 家庭の教育力の向上）

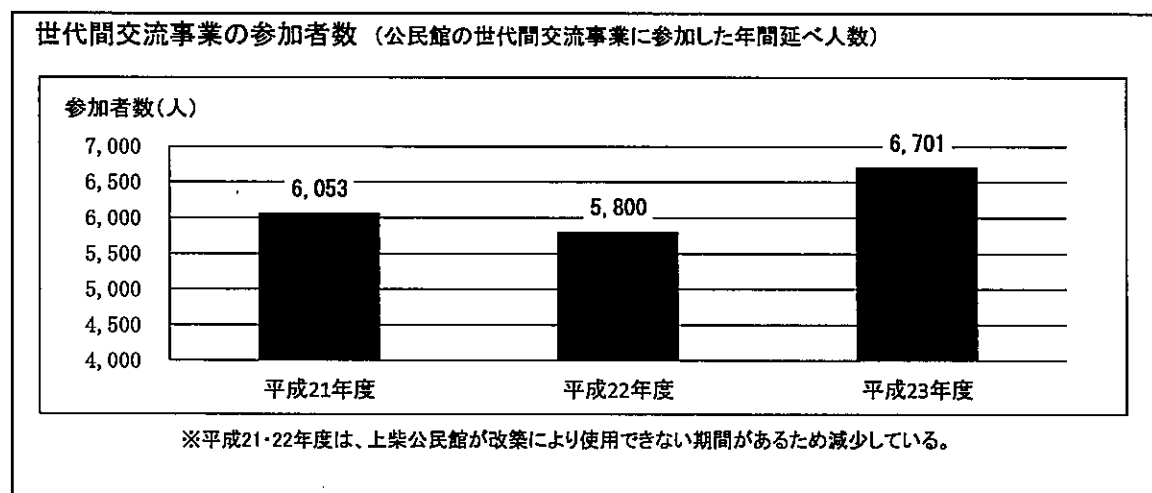
事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
5-1 家庭教育事業	<p>【決算額】718千円</p> <p>家庭教育の啓発と家庭・地域の教育力の向上のために、幼児や小中学生をもつ家庭と地域住民を対象として、家庭教育だより「まごころ」発行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発行回数年3回 発行枚数18,400枚×3回 ・全ての小学校（全19校）の就学時検診時に、「親の学習」講座を実施した。 開催回数 19回 参加人数 767人 ・各公民館において、家庭教育学級を開催した。 開催回数 48回 参加人数 1,754人 	生涯学習課

施策展開の方向	6 地域の教育力の向上
---------	-------------

評価担当課	生涯学習課	関連課	学校教育課
現状と課題	地域社会の連帯意識の希薄化などにより、地域の教育力の低下が指摘されている。子どもの教育を学校に任せきりにするのではなく、学校と相互に連携を図りながら、地域全体で子どもを見守り、育てていくことが重要となっている。		
基本方針	地域ぐるみで子どもを育てていくという考え方のもとに、世代間交流を推進しながら、地域社会の連帯意識の向上を図る。		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全19小学校において、小学生学習支援事業「がんばル〜ム」を実施した。 ・各公民館において、世代間交流事業を実施した。 ・小学校、中学校、幼稚園（市立）のPTA活動に対して活動費の補助を行った。 		
総合評価	A	※評価の目安 A: 特によい B: よい C: あまり思わしくない D: 思わしくない	
評価コメント	小学生学習支援事業「がんばル〜ム」は、小学生の参加者と学習支援者である「ちいきの先生」が年々増加している。このことは、児童にとって有意義な休日を過ごすための魅力的な事業であると同時に、地域の大人と子どもたちがふれあう機会を提供できていると評価できる。 また、世代間交流事業については、3世代交流グラウンド・ゴルフ大会やお正月飾り作り教室を各公民館で開催し、地域ぐるみのコミュニティの向上に貢献できている。 評価指標である「世代間交流事業の参加者数」については、前年度と比較し901人増加しており目標値に達した。 以上のことから、平成23年度の取組は、Aと評価した。		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ちいきの先生との交流が年々増加しており、高く評価できる。 ・今後も「がんばル〜ム」や「世代間交流事業」を通じ、地域の教育力の向上を図ってほしい。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標



関連事務事業の実績（小項目：6 地域の教育力の向上）

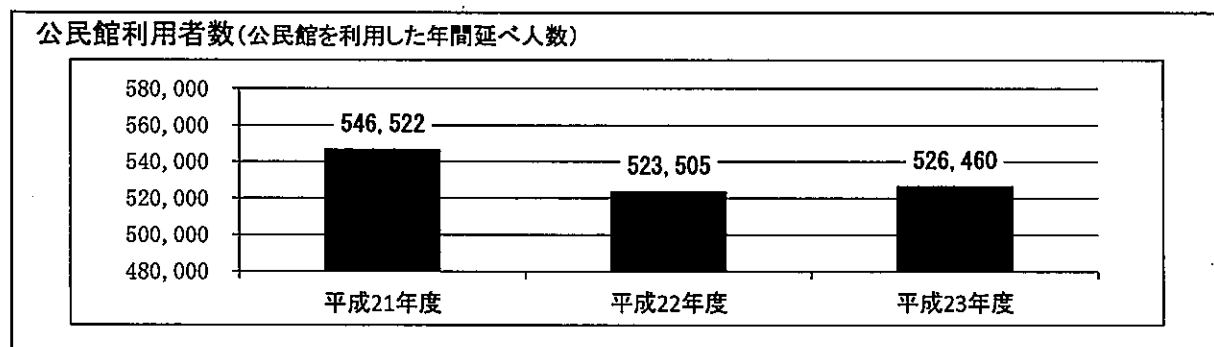
事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
6-1 社会教育団体等補助事業	【決算額】261千円 PTA 連合会情報交換会を実施した。 ※深谷市PTA 連合会、深谷市立幼稚園PTA 連合会の活動に対する補助金	生涯学習課
6-2 子供学習支援事業	【決算額】20,069千円 子どもたちが充実した休日を過ごすため、土曜日の午前中に市内19小学校を利用し、小学生学習支援事業「がんばル〜ム」を実施した。 ・「がんばル〜ム」 実施回数 全34回 参加人数 1,021人	生涯学習課
6-3 学級講座等開設事業	【決算額】2,039千円 住民相互の交流を図るため、各公民館で地域住民の要望に応じた各種講座を開催した。 ・学級講座の開催状況 開催回数 319回 参加人数 11,897人	生涯学習課

施策展開の方向	7 学習機会の提供と学習活動の支援
---------	-------------------

評価担当課	生涯学習課	関連課	
現状と課題	<p>高齢化の進行や自由時間の増大等により、多様な学習活動へのニーズが高まっている。また、社会の成熟により、価値観が多様化し、幅広い年代の人々に学ぶことへの意欲が広がっている。</p> <p>今後は、生涯学習を推進する体制の充実を図るとともに、学習ニーズに応えられる環境を整備することが求められている。また、公民館を利用して活動する市民が固定化する傾向にあり、学習活動への参加者を拡大していくことが必要である。</p>		
基本方針	<p>多様化する学習ニーズに対応できるよう、講座・教室内容の充実を図るとともに、学習成果の活用の場づくりを進める。</p>		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館において各種学級講座を開催した。 ・市内在住の外国人を対象とした「日本語教室」を実施した。 ・児童生徒が、芸術に直に触れることができる「アーティスト倶楽部」を実施した。 ・「ふかや市民大学」を実施した。 ・夏休み期間を利用し、児童とその保護者を対象とした「親子体験教室」及び「夏休み子ども体験教室」を実施した。 ・子供学習支援事業「がんばル〜ム」を実施した。 		
総合評価	B	※評価の目安 A: 特によい B: よい C: あまり思わしくない D: 思わしくない	
評価コメント	<p>公民館での各種学級講座等の開催をはじめ、子どもの居場所づくりと学習支援を目的とする小学生学習支援事業「がんばル〜ム」や学習機会の提供等を目的とする「市民大学」、芸術文化体験事業の「アーティスト倶楽部」、市内在住の外国人を対象とする「日本語教室」など、多種多様な事業を実施することができた。</p> <p>評価指標である「公民館利用者数」については、震災の影響もあったが前年よりは多少増加している。公民館が実施する事業については、毎年、同様の内容で実施しているものがあり、市民のニーズを把握し、内容の再検討を行うことが、利用者の増加のために必要と考える。</p> <p>以上のことから、平成23年度の取組は、Bと評価した。</p>		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の有料化が利用者数の減少に影響しているのではないかと。有料化の条件緩和などを検討してほしい。 ・市民大学の卒業生に各地区のリーダーとして活躍してもらおうなど、事業終了後につなげるような取組を検討してほしい。
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標



関連事務事業の実績（小項目：7 学習機会の提供と学習活動の支援）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
7-1 公民館事業 (学級講座は再掲)	<p>【決算額】2,105千円 市内12公民館において、学級講座を開設した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な講座：クラフト教室、パソコン教室、スキー教室、料理教室、ハーブ教室、そば打ち教室、絵手紙教室、バスハイキング、歴史探訪、陶芸教室等 	生涯学習課
7-2 日本語教室事業	<p>【決算額】446千円 会期：5月12日～12月22日毎週木曜日（7、8、9月は夏休み） 全19回、19時30分～21時、3クラスで開講 受講者：13カ国 43名、延べ286名</p>	生涯学習課
7-3 生涯学習推進事業	<p>【決算額】2,414千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふかや市民大学を、深谷公民館、藤沢公民館を中心に市内公共施設において、全19講座を実施した。参加人数 965人 ・パソコン講習会（計92日開催） ・シルバー生活文化展を開催した。 	生涯学習課
7-4 子供学習支援事業 (再掲)	<p>【決算額】20,168千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが充実した休日を過ごすため、土曜日の午前中に市内19小学校を利用し、小学生学習支援事業「がんばれ〜ム」を実施した。(再掲) 実施回数 全34回 参加人数 1,021人（全児童における割合 12.3%） ・夏休み期間を利用し、小学4年生から6年生の親子を対象に「親子体験教室」、小学3年生～6年生を対象に「夏休み子ども体験教室」を実施した。 親子体験教室名：「ハーブ&アロマ教室」 参加者 20組41人 夏休み子ども体験教室名：「ホバークラフト教室」 参加者 27人 	生涯学習課

施策展開の方向	8 活動施設の整備・充実
---------	--------------

評価担当課	生涯学習課	関連課	教育施設課
現状と課題	本市では、12ヶ所の公民館（生涯学習センターを含む）を中心に、生涯学習活動が活発に展開されている。市民の生涯学習活動を支えるために、公民館（生涯学習センターを含む）を整備し、適切に施設を維持管理することが必要である。		
基本方針	施設の老朽化等に対応しつつ、公民館（生涯学習センターを含む）の整備・充実に努める。		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・花園公民館建設に伴う実施設計及び花園総合支所の解体を行った。 ・深谷公民館タイル補修工事他11公民館の修繕を行った。 		
総合評価	B	※評価の目安 A: 特によい B: よい C: あまり思わしくない D: 思わしくない	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度に深谷市総合振興計画前期基本計画における目標である4ヶ所を達成している。 ・評価指標である「公民館の整備数」については、平成23年度は、市内12公民館の維持管理のほか、老朽化の著しい花園公民館の建設に向け、実施設計及び花園総合支所の解体を行い整備に着手したが、他の老朽化した公民館の整備も課題である。 以上のようなことから、平成23年度の取組は、Bと評価した。		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の備品や設備などの整備に関し、市民のニーズに合った工夫を行うことで利用者数の増加につなげることが重要である。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標

公民館の整備数			
	平成21年度	平成22年度	平成23年度
整備件数(単年)	0	1	0
整備件数(累計)	3	4	4

(平成18年1月以降の累計)

関連事務事業の実績（小項目：8 活動施設の整備・充実）

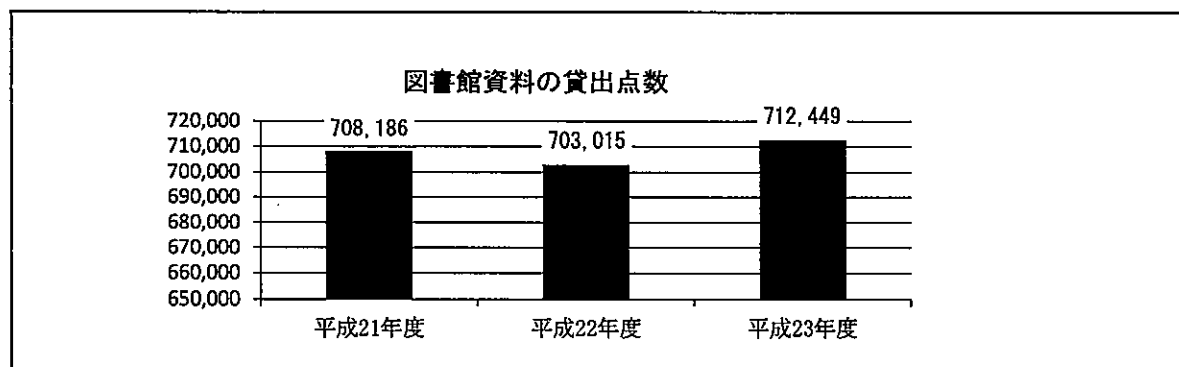
事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
8-1 社会教育施設維持管理事業	<p>【決算額】4,160千円 生涯学習課より執行委任を受け、以下の工事及び委託業務を実施した。 ・実績：川本公民館アスベスト封じ込め設計業務委託、川本公民館アスベスト封じ込め工事、岡部公民館受変電設備改修工事</p>	教育施設課
	<p>【決算額】211,677千円 市内公民館の施設の整備や保守、維持管理、修繕を行った。 ・主な経費：各公民館の電気、ガス、水道、電話、清掃委託、保守点検委託、キララ上柴建物賃借料</p>	生涯学習課
8-2 社会教育施設整備事業	<p>【決算額】105,699千円 生涯学習課より執行委任を受け、以下の工事及び委託業務を実施した。 ・実績：(仮称)花園公民館設計業務委託、花園総合支所解体工事設計業務、花園総合支所解体工事</p>	教育施設課
	<p>【決算額】3千円 花園公民館建設に係る「花園公民館建設協議会」を開催した。 ・主な経費：会議費 3,000円</p>	生涯学習課
8-3 公民館事務管理事業	<p>【決算額】73,341千円 公民館の非常勤館長・副館長、公民館運営審議会委員の報酬、臨時職員の賃金、土日、夜間の受付管理事務委託、公民館連合会の負担金などの支払を行った。</p>	生涯学習課

施策展開の方向	9 図書館の整備・充実
---------	-------------

評価担当課	図書館	関連課	教育施設課
現状と課題	<p>生涯学習意欲の高まりや高齢者利用の増加及び開館時間の拡大、新規図書施設（L・フォルテ）の開設等により、図書館の利用者は増加している。また、このことに伴い、図書資料へのニーズが多様化、専門化している。</p> <p>このような現状に対して、施設・設備及びサービスの両面での課題が存在している。</p> <p>施設・設備面では、深谷図書館、川本図書館の空調設備の老朽化、花園図書館の外壁の劣化への対応が必要であり、サービス面では、緊縮財政のために、予算や職員を削減しなければならないなか、図書館奉仕のサービスの質や量を落とすことなく、利用者へサービスを提供することが求められている。</p>		
基本方針	<p>施設・設備の整備を図りながら、図書館資料やサービスの充実に努める。</p> <p>民間活力を導入し、利用者サービスの向上を図る。</p>		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化交付金を活用し、防犯カメラを設置し、利用者の安全を確保した。（深谷） ・埼玉県障害者社会参加推進緊急整備事業補助金を活用し、文字の拡大及び音声変換機（よむべえ）を設置し、視覚障害者の利用推進を図った。（深谷） ・本館、分館の窓口業務を民間会社へ委託し、財源としてふるさと雇用再生基金を活用した。 ・毎月全図書館で「おはなし会」を開催するとともに、季節行事として、子ども読書週間展示、夏休み読書フェア、秋の読書週間、クリスマス絵本展示を開催し、子どもの読書活動の啓発と推進を図った。 		
総合評価	B	<p>※評価の目安</p> <p>A: 特によい B: よい C: あまり思わしくない D: 思わしくない</p>	
評価コメント	<p>深谷図書館に防犯カメラを設置し、犯罪の抑止力を向上させるとともに利用者の安全を確保したことから、図書館の運営・管理の向上が図られたと考える。</p> <p>また、毎月「おはなし会」を開催するとともに「子ども読書週間」等の季節行事を開催した結果、子どもやその保護者に対し本の楽しさを紹介し、子どもの読書活動の推進が図れた。</p> <p>次に、窓口業務を民間企業に委託した結果、平成22年度より、開館時間を全日、午後7時まで拡大することができ、利用者の利便性に寄与しているところである。また、図書施設が増えたことにより、「図書館資料の貸出点数」については、前年度と比較して増加した。</p> <p>以上のことから、平成23年度の取組は、Bと評価した。</p>		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は夜間まで開館し市民サービスの向上に努めていると感じる。 ・1人あたりの購入費用、蔵書数とも埼玉県内平均より下回っているとのことなので、さらなる充実を図ってほしい。
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標



関連事務事業の実績（小項目：9 図書館の整備・充実）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
9-1	<p>【決算額】3,536千円 図書館より執行委任を受け、以下の工事を実施した。 ・実績：図書館受変電設備改修工事、川本図書館高天井照明改修工事</p>	教育施設課
図書館管理運営事業	<p>【決算額】33,735千円 利用者に安全で快適な図書館を提供するため、本館と3分館の維持管理を行った。 ・主な工事：空調設備改修、消防設備修繕工事</p>	図書館
9-2 資料閲覧・貸出事務	<p>【決算額】27,752千円 図書館所蔵の資料管理や整理、貸出返却などの合理化を図るため、窓口業務の民間委託を行った。 ・業務内容：資料の管理・整理 資料の貸出と返却 予約、リクエスト資料の整理 利用者へのレファレンス等</p>	図書館
9-3 資料管理事業	<p>【決算額】20,085千円 一般書、児童書、雑誌、視聴覚資料、新聞等を購入した。 ・蔵書冊数 374,336冊（平成23年度末現在） ・AV資料所蔵点数 8,122点（平成23年度末現在）</p>	図書館
9-4 読書推進事業	<p>【決算額】359千円 読書週間の展示、読書講演会、文学歴史散歩、古典文学講習会、おはなし会、4か月健診時の絵本の読み聞かせ等を行った。 ・おはなし会・映画会等 開催回数 72回 ・講演会・講習会 開催回数 4回 ・4ヶ月健診時の絵本の読み聞かせ 実施回数 48回</p>	図書館

施策名	10 渋沢栄一翁の顕彰
-----	-------------

評価担当課	生涯学習課	関連課	
現状と課題	<p>旧渋沢邸「中の家」と渋沢栄一記念館を公開し、来館者に解説を行っている。また、情報発信のため市ホームページ上に「渋沢栄一ミュージアム」を公開し、内容を随時更新している。</p> <p>更に、顕彰協力員の育成などのために、講座「栄一塾」を開催している。</p>		
基本方針	<p>現代社会においても功績が高く評価されている郷土の偉人渋沢栄一翁の顕彰を推進する。</p>		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渋沢栄一没後80年記念事業（シンポジウム・栄一関連史跡の学習、栄一ゆかりの史跡巡り、講座「栄一塾」）を実施した。 ・ 油絵パネル展を開催した。 ・ 煉瓦講座を開催した。 ・ 渋沢栄一賞（埼玉県主催）を共催した。 ・ 市ホームページ『渋沢栄一ミュージアム』に「渋沢栄一 一問一答」を追加公開した。 		
総合評価	B	<p>※評価の目安</p> <p>A:特によい B:よい C:あまり思わしくない D:思わしくない</p>	
評価コメント	<p>渋沢栄一没後80年記念事業では、産業部門や福祉健康部門も併せ、市内外及び小学生から一般市民まで多くの方々に啓発することができ、広く顕彰することができた。</p> <p>渋沢栄一ミュージアムでは、平成23年度は「渋沢栄一 一問一答」を追加するなど工夫しており、さらに、栄一記念館の修繕を行い、来館者への対応も図っている。</p> <p>評価指標である「ホームページアクセス数」は、総合振興計画前期基本計画では、目標の38,000件を達成しているものの、平成22年度は対前年度減であり、また平成23年度は対前年度微増であることから、平成23年度の取組は、Bと評価した。</p>		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渋沢栄一没後80年記念事業の取組は高く評価できる。 ・ 今後も渋沢栄一翁の功績を市内外に広めてほしい。
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標

ホームページ(渋沢栄一ミュージアム)アクセス件数			
年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
アクセス件数(単年)	11,401件	6,370件	6,795件
アクセス件数(累計)	32,089件	38,459件	45,254件
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> ホームページを開設した 平成19年1月からの累計 </div>			
<p>渋沢栄一没後80年記念事業参加者数:12,655人</p>			

関連事務事業の実績（小項目：10 渋沢栄一翁の顕彰）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
<p>10-1 渋沢栄一翁顕彰事業</p>	<p>【決算額】13,000千円 渋沢栄一翁の功績や善行などをたたえて広く世間に知らしめるため、各種事業を行った。特に、23年度は栄一翁没後80年にあたるため、記念事業を実施した。</p> <p>① 渋沢栄一没後80年記念事業（12,655人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記念公開シンポジウム ・ 渋沢栄一関連史跡の学習 ・ 渋沢栄一ゆかりの史跡めぐり ・ 講座「栄一塾」 <p>② 油絵パネル展 ③ 煉瓦講座（37人） ④ 渋沢栄一賞（埼玉県主催）の共催</p>	<p>生涯学習課</p>
<p>10-2 渋沢栄一記念館管理運営事業</p>	<p>【決算額】1,950千円 栄一翁顕彰の拠点である渋沢栄一記念館の維持管理事業。23年度は4か所の修繕を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議室修繕 ・ 外壁タイル修繕（玄関前・南西） ・ 調理室排水管引換え工事 ・ レンガ擁壁改修工事 	<p>生涯学習課</p>

施策名	11 伝統文化の保存・継承と活用
-----	------------------

評価担当課	生涯学習課	関連課	
現状と課題	本市は古くから人々が生活してきた場所で、多くの遺跡があり、さまざまな文化財が残されている。近年の急激な時代の流れのなかで、世代交代等から、個人所蔵の文化財を維持管理することが困難になりつつあり、文化財の保存・継承の取り組みを強化する必要がある。また、市内各地に伝えられる無形民俗文化財についても、これらを保存し後世に継承していく活動を支援していく必要がある。		
基本方針	地域に伝えられ、残されてきた有形・無形の文化財の調査・研究、保護・保存や継承に取り組むとともに、市民の共有する財産として活用を図る。		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財の発掘調査を10件行い、報告書を4冊刊行した。 ・小前田上町屋台の修繕に係る補助金を交付し、指定文化財管理費を交付した。 ・後継者育成補助事業及び上野台獅子舞記録作成事業を実施した。 ・文化財の企画展「深谷の旧石器」を開催した。 ・重要文化財「ホフマン輪窯6号窯」の特別公開を実施した。 		
総合評価	B	※評価の目安 A:特によい B:よい C:あまり思わしくない D:思わしくない	
評価コメント	各種開発に伴う発掘調査を確実に実施し、その成果として報告書刊行や企画展を開催することができた。 また、文化財を後世に伝えるための映像記録保存やホフマン輪窯の特別公開、補助金交付や報償金などによる保存・活用に努めている。 評価指標である指定文化財保存事業の実施数については、毎年1件ずつ取り組み、事業の推進は図っているものの、申請件数と修理件数等についての検討が必要なことから、平成23年度の取組は、Bと評価した。		
意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な取組を行っていることは実感できる。 ・今後も適切に文化財の保存・活用を行ってほしい。 		

評価指標

申請された指定文化財保存事業の実施件数			
年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
実施件数(単年)	1	1	1
実施件数(累計)	6	7	8

(平成18年1月以降の修理等件数の累計)

関連事務事業の実績（小項目：11 伝統文化の保存・継承と活用）

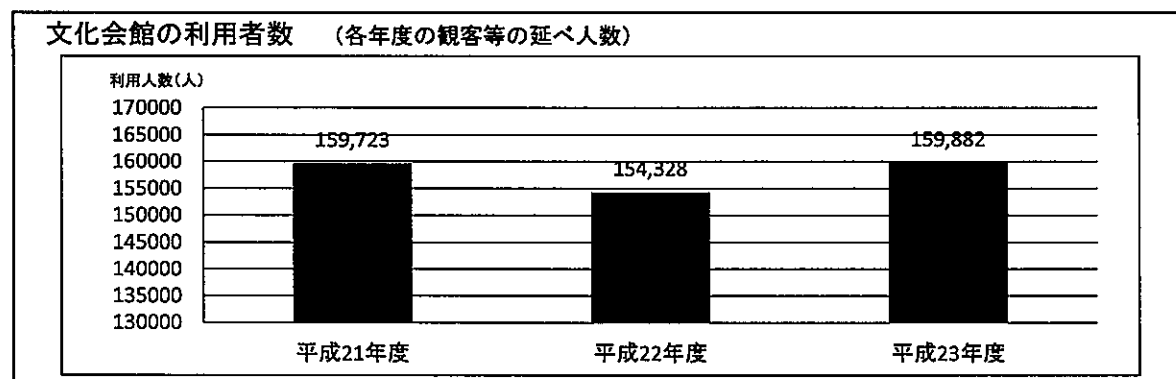
事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
11-1 埋蔵文化財調査事業	<p>【決算額】23,707千円 市内にある埋蔵文化財包蔵地の発掘調査及び発掘調査報告書の刊行を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内所在の埋蔵文化財の69件5,266㎡の確認調査、8件6,934㎡の発掘調査、2冊の報告書刊行 ・北通り線4,440㎡の発掘調査と1冊の報告書刊行 	生涯学習課
11-2 文化財活用事業	<p>【決算額】43,397千円 市内所在の各種文化財の保存及び公開を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形民俗文化財後継者育成補助21件 ・指定文化財管理費補助40件 ・無形民俗文化財映像記録保存事業（上野台獅子舞1件） ・旧煉瓦製造施設の特別公開 ・遺跡発掘調査報告会開催 	生涯学習課
11-3 文化財施設管理活用事業	<p>【決算額】27,988千円 旧渋沢邸「中の家」、誠之堂・清風亭など市を代表する文化財を適切に維持管理し、活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中の家」公開（年末・年始除く） ・誠之堂・清風亭公開（年末・年始除く） ・煉瓦史料館公開（毎週金曜日） ・川本出土文化財管理センター公開（土日祝祭日除く） ・旧渋沢邸「中の家」の土蔵Ⅱシロアリ薬剤消毒 ・旧煉瓦製造施設の自動火災報知機修理、旧事務所塗装工事 ・川本出土文化財管理センターの受水槽修繕 	生涯学習課

施策展開の方向	12 文化・芸術活動の活性化
---------	----------------

評価担当課	生涯学習課	関連課	
現状と課題	生涯学習活動が盛んになるとともに、人生を豊かにする文化・芸術活動への市民の参加意識が高まっている。そこで文化・芸術活動のさらなる活性化を図るためには、優れた文化・芸術に触れる機会の拡充や、文化団体等の自主的な活動を支援していくことが求められる。あわせて、老朽化した文化施設の計画的な修繕・整備も必要である。		
基本方針	市民が心豊かな生活を送ることができるように、市民の文化・芸術活動の活性化を図る。		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ N響公演や日本の歌コーラスのコンサート、ファミリーを対象にした歌のコンサートを開催した。 ・ 渋沢栄一翁に関する企画展示を開催した。 ・ 小・中学生を対象にした「アーティスト倶楽部」や「こども大学ふかや」において、文化・芸術体験を展開した。 ・ NPOと協働し、優秀映画鑑賞の開催を行った。 		
総合評価	B	※評価の目安 A: 特によい B: よい C: あまり思わしくない D: 思わしくない	
評価コメント	文化・芸術活動の振興については、コンサート、企画展示など幅広い分野にわたって事業を実施している。また、NPOや文化団体と協働により、優秀映画鑑賞会を開催した。特に小・中学生を対象にして芸術・文化的な体験を行う事業への取り組みを行った。今後も各年代層への活動の裾野を広げる必要がある。 評価指標である「文化会館の利用者数」については、過去3年間を比較すると、震災等による影響があるにもかかわらず利用者数は平均的に推移している。今後更に各年代層への活動の裾野を広げる必要がある。 以上のことから、平成23年度の取組は、Bと評価した。		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化振興事業について、学校が参加しやすくなるよう検討してほしい。 ・ 各催事で設定した動員の目標値を達成できるように、PRの方法を検討してほしい。
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標



関連事務事業の実績（小項目：12 文化・芸術活動の活性化）

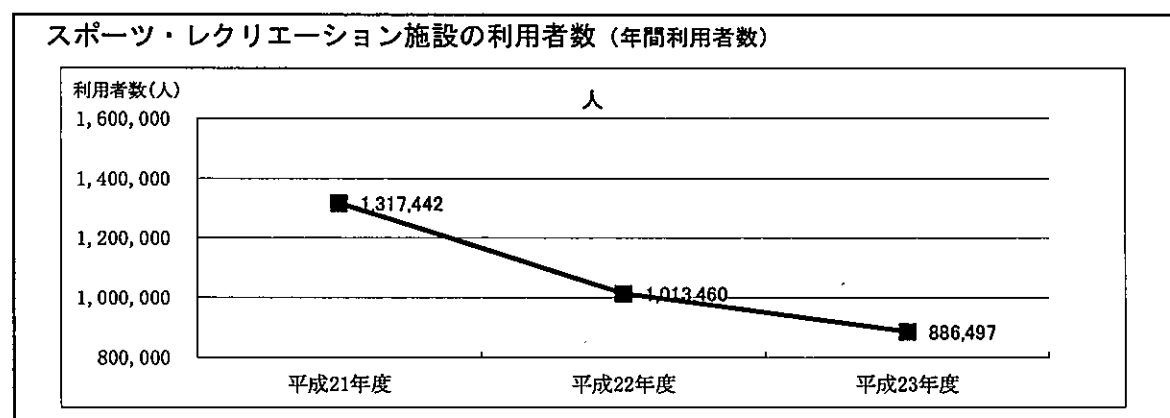
事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
12-1 文化振興事業	<p>【決算額】：823 千円</p> <p>市民が芸術文化に触れ、親しむきっかけをつくるために、企画展覧会やコンサートなどの事業を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優秀映画観賞会：入場者数 324 名 ・本物の舞台芸術体験、鑑賞事業：市内 4 小学校、3,240 名参加 ・アーティスト倶楽部：6 回実施、168 名参加 ・企画展覧会：入場者数 676 名 ・子ども大学ふかや：修了者 63 名 	生涯学習課
12-2 花園文化会館アドニス自主事業	<p>【決算額】：2,391 千円</p> <p>市民が芸術文化に触れることのできる機会を提供するために、花園文化会館アドニスでコンサートを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域住民のためのコンサート」：入場者数 447 名 ・フォレストコンサート：入場者数 673 名 	生涯学習課
12-3 学術文化活動奨励事業	<p>【決算額】：700 千円</p> <p>文化団体の育成のため、文化団体連合会が主催する文化祭などの文化事業に補助金を交付した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化団体連合会：補助金交付 700,000 円、加盟人数 2,628 名 	生涯学習課
12-4 美術品収蔵事務	<p>【決算額】—</p> <p>市が管理する収蔵美術品等をデジタルミュージアムで公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵美術品：収蔵点数 92 点、新規美術品受入数 1 点 ・デジタルミュージアムアクセス数 2,000 件 	生涯学習課
12-5 市民文化会館管理運営事業	<p>【決算額】：89,574 千円</p> <p>市民が市民文化会館及び花園文化会館アドニスを安全に、かつ、快適に使用できるよう、管理運営を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用件数 1,299 件 ・利用者数 159,882 名 ・施設管理上の瑕疵による事故件数 0 件 	生涯学習課

施策展開の方向	13 スポーツ・レクリエーション活動の環境整備
---------	-------------------------

評価担当課	生涯学習課	関連課	教育施設課
現状と課題	<p>市内には、総合体育館や市営グラウンド、その他各種スポーツ・レクリエーション活動の拠点となる、スポーツ施設が充実している。</p> <p>その一方で、老朽化に伴う破損箇所が年々増加しており、修繕する必要が生じるなど課題がある。</p> <p>市民が積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加するために、施設を適切に管理し、市民の声に傾聴しつつ、より良い環境を整備していく必要がある。</p>		
基本方針	<p>利用者が安全かつ快適に利用できるよう、スポーツ・レクリエーションに使用する施設のより適切な管理を図る。</p>		
H23年度の主な取組	<p>・体育館やグラウンド等スポーツ施設の巡視、点検を頻繁に行い、夜間照明や施設の破損箇所等の修繕を行った。</p>		
総合評価	C	<p>※評価の目安</p> <p>A: 特によい B: よい C: あまり思わしくない D: 思わしくない</p>	
評価コメント	<p>スポーツ施設の利用者から受けた修繕等要望に迅速に対応できたが、平成23年度末において、利用者が怪我をする事故が発生したため、業者への監督指導を徹底した。</p> <p>評価指標である「スポーツ・レクリエーション施設の利用者数」については、ここ数年利用減となっており、平成23年度においては、東日本大震災の影響や施設の修繕等の影響もあり、さらに減少している。</p> <p>施設の老朽化に伴う修繕の増加は今後も見込まれるところであるが、利用者に安全で快適にスポーツ施設を利用して頂くために、適切かつ効率的な管理運営に取り組み、施設の利用者数の増加を図る必要があることから、平成23年度の取組は、Cと評価した。</p>		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止のため施設の維持管理は重要だと思う。 ・利用者の減少は、利用するスポーツ少年団等の構成員が減少していることも影響しているのではないかと。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標



※平成23年度は、深谷市総合体育館の改修等により、利用者数が減少している。

関連事務事業の実績（小項目：13 スポーツ・レクリエーション活動の環境整備）

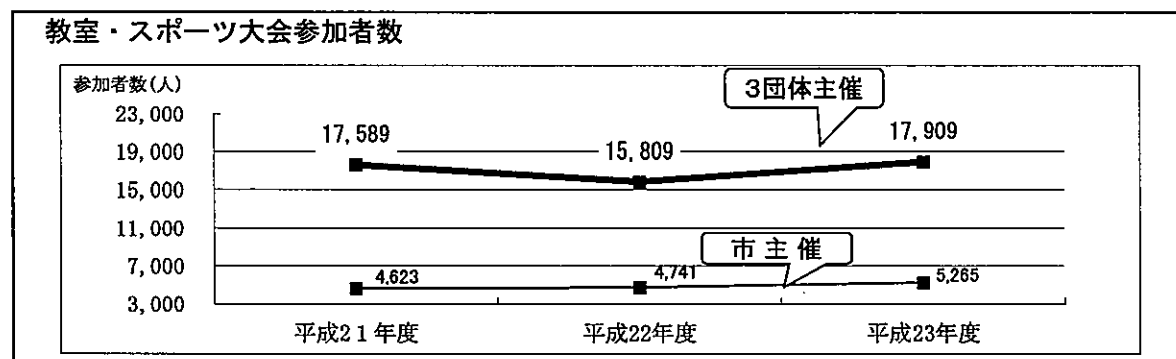
事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
13-1 体育指導委員活動推進事業	<p>【決算額】1,391千円 スポーツの振興のため、市民に対しスポーツの実技指導・助言を行う体育指導委員を設置し、報酬の支払い、ユニフォームの購入等その活動の支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育指導委員数 42人 ・年間活動回数 40回（出席者数 計499人） ・主な活動：スポーツ講習会、各種大会等支援 	生涯学習課
13-2 市営グラウンド維持管理事業	<p>【決算額】26,328千円 市営グラウンド施設を利用者が快適に使用できるよう、夜間照明施設を修繕する等の維持管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営グラウンド：7施設（中瀬、岡部中央、岡部東、川本天神、川本（グラウンドゴルフ場）、上本田、植松） ・年間利用人数 63,531人 	生涯学習課
13-3 B&G海洋センター整備管理事業	<p>【決算額】2,340千円 岡部B&G海洋センターを利用者が快適に使用できるよう、外壁を修繕する等の維持管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※プールの貸出は、平成19年度から休止中。 ・年間利用人数 20,326人 	生涯学習課
13-4 市民体育館整備管理事業	<p>【決算額】3,150千円 生涯学習課より執行委任を受け、以下の委託業務を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績：市民体育館耐震診断業務委託 <p>【決算額】840千円 市民体育館を利用者が快適に使用できるよう、施設修繕等の維持管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用人数 36,568人 	教育施設課 生涯学習課
13-5 総合体育館整備管理事業	<p>【決算額】46,912千円 総合体育館を利用者が快適に使用できるよう、浄化槽水中ブローア交換修繕等の維持管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用人数 222,687人 	生涯学習課
13-6 学校体育施設開放事業	<p>【決算額】4,070千円 市民のスポーツ・レクリエーション活動を推進するため、市内19小学校及び10中学校のグラウンド、体育館、武道場等を開放し、市民の利用に供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用人数 181,149人 	生涯学習課

施策展開の方向	14 スポーツ・レクリエーション活動の活性化
---------	------------------------

評価担当課	生涯学習課		
現状と課題	<p>近年、ストレスや運動不足の解消、健康増進を目的とした、スポーツ・レクリエーション活動に積極的に参加する市民が増加している。</p> <p>多様化・高度化するスポーツ・レクリエーションへのニーズに応えるために、指導者を養成し、活用を図っていく必要があるが、指導者の絶対数が不足している状況となっている。</p> <p>また、多くの市民が参加できるイベントを開催していくために、市民一人ひとりのニーズを把握し、市内外にイベント情報を周知する必要がある。</p>		
基本方針	だれもが生涯を通じて自らの年齢や体力に応じたスポーツ・レクリエーション活動に積極的に参加できるよう、支援を行う。		
H23年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 『第6回ふかやシティハーフマラソン』を開催した。 体育協会に加入しているスポーツ・レクリエーション団体主催の各種大会・教室等に対し、市民へ広報及びホームページを活用した情報提供を行うなどの支援を図った。 体育協会、レクリエーション協会及びスポーツ少年団へ活動補助を行った。 		
総合評価	B	※評価の目安 A:特によい B:よい C:あまり思わしくない D:思わしくない	
評価コメント	<p>本市の代表的なイベントである「第6回ふかやシティハーフマラソン」を開催し、全国から5,200人を超える参加者があった。最終的には大きなトラブル等もなく円滑に終わることができた。一方、定員に満たない種目があったことをふまえ、募集方法等を改善する必要があると考えられる。</p> <p>評価指標である「教室・スポーツ大会参加者数」については、体育協会、レクリエーション協会及びスポーツ少年団の3団体主催及び市主催ともに、平成23年度は増加した。</p> <p>市内各地で市民大会や教室等が活発に実施され、市民のスポーツ・レクリエーション活動へ参加する機会の充実を図れたことは評価できる。</p> <p>以上のことから、平成23年度の取組は、Bと評価した。</p>		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ふかやシティハーフマラソンも定着し参加者が伸びていることは評価できる。 参加者の定員の設定などについて、安全を維持できる範囲で検討してほしい。
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標



関連事務事業の実績（小項目：14 スポーツ・レクリエーション活動の活性化）

事務事業	平成23年度実績 【事業費（決算額）・事業の内容】	担当課
14-1 体育・レクリエーション事業	<p>【決算額】10,710千円 市内12公民館の各地区市民を対象として、体育祭や球技大会、レクリエーション講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ開催日数（全公民館計） 162日 ・延べ参加者数（全公民館計） 95,732人 	生涯学習課
14-2 スポーツ教室・イベント開催事業	<p>【決算額】5,818千円 第6回ふかやシティハーフマラソン、市民体力測定を実施した。埼玉駅伝大会、東日本実業団対抗駅伝競走大会及び日本スリーデーマーチへの支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回ふかやシティハーフマラソン（平成24年2月26日開催）参加者数 5,265人 	生涯学習課
14-3 スポーツ栄誉賞等表彰事業	<p>【決算額】328千円 各種大会において優秀な成績を修め、深谷市のスポーツ振興に貢献したその栄誉を顕彰するため、市民又は市内に本拠を有する学校・団体等を対象に、深谷市スポーツ栄誉賞及び深谷市教育委員会体育賞を贈呈した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ栄誉賞 個人11人 ・教育委員会体育賞 9団体、個人27人 	生涯学習課
14-4 スポーツ・レクリエーション団体活動支援事業	<p>【決算額】5,947千円 市民のスポーツ・レクリエーション活動の推進を図るため、体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団の3団体を対象として、市民大会・教室の開催及び補助金交付を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育協会（25団体） 15教室開催（参加者：1,183人） 24大会開催（参加者：10,381人） ・レクリエーション協会（39団体） 8協会事業（参加者：2,745人） ・スポーツ少年団（49団体） 8大会開催（参加者：3,600人） 	生涯学習課

6 結びに

深谷市教育委員会では、深谷市総合振興計画の施策大綱「第3章 次代を担う人と文化を育むまちづくり<教育・文化>」を構成する14の項目を柱として様々な教育施策を展開し、その結果について点検評価を行いました。

各施策展開の方向を個別に検証した場合には、以下のとおり評価を受けたものや課題の残る項目も見受けられる状況でした。

まず、施策展開の方向「1 幼児教育の充実」では、評価担当課は、「子育てひろば」を通じて子育てに不安を持つ保護者への支援について評価したものの、点検評価者からは、正規職員の不足などが課題として指摘されました。

「2 小・中学校教育の充実」では、評価担当課は、「学校が好きだと回答した児童生徒の割合」が向上していることから、教育の質の向上について評価し、評価者からも取組が充実していると評価されました。

「4 学校施設・設備等の整備」では、評価担当課は、「学校施設の耐震化率」が目標としていた98%に概ね近づいたことから、事業の進捗について評価し、評価者からも学校の修繕については対応が早いということが評価されました。

「6 地域の教育力の向上」では、評価担当課は、「世代間交流事業の参加者数」が前年と比較して増えたことから、事業の内容について評価し、評価者からも児童生徒とちいきの先生との交流が年々増加していることが評価されました。

「7 学習機会の提供と学習活動の支援」については、評価担当課は、市民大学などの学習機会の提供について評価したものの、評価者からは、事業終了後につなげるような取組が課題として指摘されました。

「9 図書館の整備・充実」では、夜間開館による市民サービスの向上を評価したものの、評価者からは、蔵書数等が埼玉県内平均より下回っていることが課題として指摘されました。

「12 文化・芸術活動の活性化」については、評価担当課は、コンサートや企画展示などを評価したものの、点検評価者からは、文化振興事業に各小中学校が参加しやすくすることが課題として指摘されました。

「14 スポーツ・レクリエーション活動の活性化」については、評価担当課は、「ふかやシティハーフマラソン」の実施について評価したものの、点検評価者からは、定員の設定方法など、運営面での改善が課題として指摘されました。

点検評価を行った結果、12の評価項目において総合評価でB（よい）以上の評価をすることができました。しかし、C（あまり思わしくない）が2項

目あったことや、課題とされる点があることを踏まえ、今後、事業の見直しや新たな事業展開の検討、保護者や地域、関係機関等との連携を図るなど、目標達成に向けた継続的な改善に取り組みながら各種施策を展開していくことが重要であると考えます。

また、今回の点検評価を行うに当たり、その客観性を確保する観点から、次の点検評価者にご意見等をいただきました。

益田 裕充 群馬大学大学院教育学研究科教授
倉上 武雄 深谷市社会教育委員会議長

教育委員会の所管する行政事務は、学校教育、生涯学習、生涯スポーツ、図書館サービスなど、多岐にわたりますが、社会環境の変化を踏まえ、創意工夫をこらし、効果的な教育行政を推進してまいります。

平成 24 年度

教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

発行 平成 25 年 2 月
編集 深谷市教育委員会

〒366-0823

深谷市本住町 17-3

TEL 048-574-5811

FAX 048-574-1744

